

日医ニュース

2019. 8. 20 No. 1391

日本医師会
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail www.info@po.med.or.jp
http://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



トピックス

- 定例記者会見 2面
- マスギャザリング災害対策セミナー 3面
- 勤務医のページ 8面

フォーラムは、橋本省宮城県医師会副会長による開会宣言で幕を開け、3名の来賓者によるあいさつが行われた。

冒頭あいさつした横倉会長は、「皆さんの協力により、男女共に働きやすい環境の整備が徐々に進んでいく」として、感謝の意を



第15回男女共同参画フォーラムが7月27日、「男女共同参画のこれまでとこれから—さらなるステージへ—」をテーマとして、仙台市内で開催され、日医からは横倉義武会長を始め、今村聡副会長、小玉弘之・道永麻里両常任理事、計田香子理事が出席した。

当日は、基調講演（1題）、報告（2題）、シンポジウム等が行われ、その成果を別掲の宣言として取りまとめ、採択した。

第15回男女共同参画フォーラム 「男女共同参画のこれまでとこれから—さらなるステージへ—」をテーマに

示した上で、「今後、医学部卒業生の男女比率は同数になることが予想される中で、医療界をリードする女性が現れることが期待されている。本フォーラムがその一助となれば幸いである」と述べた。

佐藤和宏宮城県医師会長は、今回のフォーラム

が今後の男女共同参画の推進に資することに期待感を表明。村井嘉浩宮城県知事は、「医療界における男女共同参画の推進は安全で質の高い医療の提供につながるものであり、県としてもしっかりと支援していきたい」と引き続き行われた基調

講演では、本橋ほづみ東北大学加齢医学研究所教授がさまざまな環境因子に対して、人間がどのように対応しているのか、環境応答の仕組みについて解説。転写因子「NRF2」がその仕組みの活性化に大きく寄与しているとするとともに、同研究所の「NRF2」の加齢性難聴、アルツハイマー病に関する研究成果を紹介し、抗老化作用も明らかにしつつあるとした。

その上で同教授は「これからも健康長寿の実現のため、研究を続けていきたい」と述べるとともに、「NRF2」の活性化に寄与する野菜として、「ブロッコリースプラウト」「わさび」「ハーブ」などを挙げ、その摂取を呼び掛けた。

女性医師バンクの全国的な連携体制の構築を目指す

続いて、2題の報告が行われた。

日医の小笠原真澄男女共同参画委員会委員長は、「(1) 今期の同委員会への横倉会長からの諮問は「男女共同参画の推進と医師の働き方改革」

新専門医制度へのさまざまな不安が明らかに—シンポジウム

シンポジウムでは、まず、「新専門医制度」に対しては「期待と不安」が並存していると述べ、女性研修医と女子医学士の立場から「と題して、福與なおみ宮城県医師会常任理事が「カリキュラム制による従来の専門医制度で研修ができたために、自分は専門医の資格を取得することができた」と述べ、現行制度の仕組みに疑問を投げ掛けた。

岩田彩加氏（東北大学医学部6年生）は新専門医制度について、「ロールモデルがない」「初期臨床研修病院を専門医取得まで見据え、選択するのは困難である」などの不安を述べるとともに、「プログラムに従って研修をすれば、一定の知識

動の上限規制が女性医師の働き方への影響を及ぼすかについても検討していきたい」とした。

小玉常任理事は、「日本医師会女性医師支援センター事業」について、求職登録者、就業成立状況や技術を習得した医師になることの保証」「取得基準の明確化、分かりやすさ」などが実行されることに期待感を示した。

また、今後、男女共同参画をより進めていくための方策については、「男女平等の意識の醸成」「女性が認め合うこと」「ワークライフバランスを図る」「多様性を認める」などが必要になるとの考

と強調した。

また、今後、男女共同参画をより進めていくための方策については、「男女平等の意識の醸成」「女性が認め合うこと」「ワークライフバランスを図る」「多様性を認める」などが必要になるとの考

況共に順調な伸びを示していることを紹介。本事業の課題と展開に関して、①日本医師会女性医師バンクの全国的な連携体制の構築（具体的には「都道府県医師会担当者制度（仮）」の創設を検討中）②マッチングノウハウの更なる向上③女性医師支援にとまらせず、シニア医師や医業継承支援への事業展開（国と調整中）—があるとして、その実現に意欲を示した。

力山敏樹自治医科大学附属さいたま医療センター副センター長は、外科医の減少を防ぐには女性医師を勧誘し、女性外科医が働きやすい環境を整備することが必要になると強調。同センターの取り組みとして、子育て中の女性医師に対して、「朝夜間呼び出し」の免除等を行っているとする一方、「抱えている問題、目指していることは十色であり、それぞれの要望を丁寧に聞いて対応することが大事になる」とした。

その後の総合討論では、シンポジストと参加者との間で活発な意見交換が行われた。

コメンテーターとして出席した今村副会長は、

「新専門医制度に対して不安を持っている学生や若い医師の声を直接聞き、心が傷んだ」とした上で、「分らないことがあれば、日本専門医機構に直接、あるいは都道府県医師会を通じて日医に知らせて欲しい」と要

請。「女性が要職で働くことができる環境整備が必要であると感じており、日医としてもしっかりと取り組んでいきたい」と述べ、理解と協力を求めた。

引き続き、今回のフォーラムの成果として取りまとめられた別掲の宣言が読み上げられ、満場一致で採択された。

なお、次回の本フォーラムは大分県医師会の担当により、令和2年5月23日に大分市内で行われることになっている。

第15回男女共同参画フォーラム宣言

日本医師会男女共同参画フォーラムが平成17年に初めて開かれて以来14年の活動で得た成果を基盤にし、医療においてもワークライフバランスが重要という意識を確信した。この活動のさらなる発展を図るために、男女を問わず医師の働き方改革を進めながら、国民の医療に大きく貢献できる段階へと進化させることを決意し、以下、宣言する。

- 一、多様な働き方を認め、男女を問わず豊かな医療人を育む
- 一、指導的立場の女性医師を増やし、2020.30運動の理念を医師会・大学・学会ともに連携して推し進め結果を出す
- 一、医師を目指すすべての人に対する、医育機関での公平で公正な対応を求める

令和元年7月27日
日本医師会第15回男女共同参画フォーラム

日 医 定例記者会見

7月24日

第25回参議院議員選挙の結果を受けて



横倉義武会長は、7月21日に行われた第25回参議院議員選挙の結果を受けて、日医の見解を公表した。

まず、同会長は、政権与党が改選過半数を上回る議席を獲得した今回の選挙結果について、引き続き安定した政権基盤が確立されたとするとともに、「選挙前の各種世論調査では、有権者が社会保障政策を最も重視している」と報じられていたが、自由民主党は比例区における社会保障関係の候補者10名で120万票超を獲得しており、医療や介護に国民の関心が極めて高いことを表している」と述べた。

日本医師連盟の組織内候補として自由民主党の比例区から立候補していた羽生田たかし氏が2期目の当選を果たしたことは、「すべての人によさしい医療・介護が提供

結果を受けて

できる社会の実現に向けて、より一層活躍されることを期待している」と

する一方、当選したことでも、地域の実情について、都道府県においても分析が必要であるとし、それを踏まえて医政活動のあり方を抜本的に見直していく必要があるとした。

具体的には、まず、若手医師に日医の考え方を一方向的に理解を求め、若手医師の意見を吸い上げていくこと、組織を変えていくことを考えているとした他、「市町村議会議員や都道府県議会議員にも医療の問題点を共有して頂くことも大切であり、地方議会議員に医師会の考え方を理解してもらうための取り組みを進めていかなければならない」と指摘。

との日常的な連携——などを挙げた。

最後に、同会長は、「本年10月には消費税率が10%に引き上げられ、年末に掛けては2020年

外来医療計画について



釜淵敏常任理事は、「外来医療に係る医療提供体制の確保に関するガイドライン（平成31年3月）」

における外来医療計画について、その趣旨を説明するとともに、開業を制限するものではないことを改めて強調した。

今回の会見は、7月18日に開催された厚生労働省の社会保障審議会医療部会の冒頭、鈴木健彦同省医政局地域医療計画課長より、「今回の外来医療計画の仕組みは、医師の開業を強制力を持って制限するものではなく、い」旨の発言がなされたことを踏まえて行われたものである。

度の診療報酬改定に向けた議論とともに、来年の「冒太の方針2020」に向けて厳しい議論が行われることが予想される。日医は、国民が必要

な医療を過不足なく受けられるよう、今後も強く主張していく」との考えを示した。

「市町村議会議員や都道府県議会議員にも医療の問題点を共有して頂くことも大切であり、地方議会議員に医師会の考え方を理解してもらうための取り組みを進めていかなければならない」と指摘。その一例として、（1）医師会と医師連盟との更なる連携強化、（2）病院を始めとした医療機関等の若い医師への積極的なアプローチ、（3）地域医師会と地方議会議員

ため、外来医療計画に関する都道府県行政や報道関係各所への説明等に当たっては、十分に注意を払うよう求めてきたことを説明した。

その上で、2008年以降、医学部定員を増やすことで医師の総数は増えているものの、地域偏在や診療科偏在は解消していないことを指摘。診療所でも、新規開業が更に都市部に集中している現状については、「限りある医療資源の有効活用

松本吉郎常任理事は、厚生労働科学研究費で行われた「医療を取り巻く状況の変化等を踏まえた医師法の応召義務の解釈に関する研究」について

いケースもあることを報告した。

今回の外来医療計画の趣旨については、「地域の医療需要や医療資源を『見える化』して情報提供を行うことで、新たに開業を検討する医師に自主的な判断を促すことにある」と改めて説明するとともに、「外来医師多数区域」で開業する場合

「市町村議会議員や都道府県議会議員にも医療の問題点を共有して頂くことも大切であり、地方議会議員に医師会の考え方を理解してもらうための取り組みを進めていかなければならない」と指摘。その一例として、（1）医師会と医師連盟との更なる連携強化、（2）病院を始めとした医療機関等の若い医師への積極的なアプローチ、（3）地域医師会と地方議会議員

医師法の 応招（召）義務の解釈に関する 厚労科研報告書について概説



松本吉郎常任理事は、

厚生労働科学研究費で行われた「医療を取り巻く状況の変化等を踏まえた医師法の応召義務の解釈に関する研究」について

「本報告書は、いわゆる医師の働き方改革の議論の一環として、医師の労働時間を短縮できない背景の一つに「応招（召）義務」が取り沙汰されたことから、そのあり方を検討するという趣旨で設置されたものである。

研究代表者は岩田太上智大学法学部教授が、研究協力者には松本常任

「本報告書は、いわゆる医師の働き方改革の議論の一環として、医師の労働時間を短縮できない背景の一つに「応招（召）義務」が取り沙汰されたことから、そのあり方を検討するという趣旨で設置されたものである。研究代表者は岩田太上智大学法学部教授が、研究協力者には松本常任

ご活用下さい



日医では、毎月第3火曜日に行われている理事会並びにその他の火曜日に行われている常任理事会の報告内容の要旨をまとめた速報を作成し、原則としてその週の木曜日に日医ホームページ「メンバーズルーム」に掲載しています。

国の審議会や検討会の審議内容、日医執行部の考えなどが分かるようになっておりますので、ぜひご活用下さい。

日医広報課

した判断などを基に「いかなる場合に、診療しないことが正当化されるか」を一覧表として整理したことを紹介。（1）緊急対応が必要なケース、（2）緊急対応が必要なケース、（3）個別事例——の三つに分類した上で、「診療時間内・勤務時間内」と「診療時間外・勤務時間外」に場合分けし、それぞれについての法的解釈等が示されているとした。

同常任理事は、今後の展望として、「本報告書を受けて、厚生労働省と

マスギャザリング災害(CBRNEテロ含む)対策セミナーを開催

マスギャザリング災害医療体制の充実と 災害対応能力の向上を目指して

令和元年度都道府県医師会救急災害医療担当理事連絡協議会を兼ねた「マスギャザリング災害(CBRNEテロ含む)対策セミナー」がラグビーワールドカップ2019に向けて7月25日、



あいさつする横倉会長



ターニケットを用いた止血法の実習

日医会館小講堂で開催された。

石川広己常任理事の司会で開会。冒頭あいさつに立った横倉義武会長は、7月18日に起きた京都アニメーションの放火火災に触れ、「近年、さまざまな所でマスギャザリング災害が起きており、それに伴い、一般医療機関もその事態に備えた研修を実施しておくことが重要になってきている」と述べ、本セミナーが全国のマスギャザリング災害医療体制の充実と災害対応能力の向上に資する点とともに、ラグビーワールドカップの成功に寄与することに期待を寄せた。

野一郎事務総長代行は、9月20日から始まるラグビーワールドカップの開催に向けて、会場及びキャンプ地の医療体制を含めた体制整備は詰め段階を迎えているが、マスギャザリング災害への備えが不足していると指摘。医師会、自治体に対して更なる協力を求めた。

医師会が災害医療に関わる意義を強調

— 石川常任理事

次に、日医と東京都医師会監修で刊行した『大規模イベント医療・救護ガイドブック』を参考テキストとした講演が行われた。

まず、石川常任理事が「各地域におけるマスギャザリング対策の実情と本セミナーの狙いについて」と題し、(1) 医師会によるマスギャザリング対策の意義と本セミナーの狙い、(2) 各地域におけるマスギャザリング対策の実情、(3) 日医のラグビーワールドカップ2019に向けたマスギャザリング対策について解説。「日本は大規模自然災害が発生する確率が高い上にテロリズムの発生リスクもある。災害医療では一般の医療機関の役割が重要となり、各医療機関を取りまとめ、専門機関との連携を果たせる医師会がその対策に関わる意義は大きい」と述べた。

また、参考テキストから、医師会の立ち位置と組織体制等について紹介するとともに、日本医師会総合政策研究機構が行った

「ラグビーワールドカップ2019開催地におけるCBRNEテロ災害対策の現状把握調査」結果の概要を説明した。

山口芳裕日医救急災害医療対策委員会委員長・マスギャザリング災害に備えた医療体制ワーキンググループ座長/杏林大

長は、「大規模イベントのリスク」として、自身が編集代表として携わっている『大規模イベント医療・救護ガイドブック』の概要を説明。マスギャザリングのリスクはイベント特定と環境因子によって規定されることから、「医療体制を整備するに当たっては、悪意のないマスギャザリング(日常診療で対応できる

民・実地医家での対応が緊要であると強調した。田邊晴山日医救急災害医療対策委員会委員/救急振興財団救急救命東京研修所教授は、「マスギャザリング(CBRNEテロを含む)災害の基本対処法」として、CBRNEを疑うためのポイントや安全確保のための避難・脱衣・除染の重要性について説明した後、マスクやビニール手袋、ティッシュを用いて乾式除染の実習を行った。

最後に、総括を行った中川俊男副会長は、「本年9月のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2025年の大阪万博控え、日本国民や訪日外国人の生命、社会の安全を守るために、一般の医師・医療機関、専門機関の連携が重要になってきている」と述べ、日医としても、更にマスギャザリング災害への対策を進化させていく考えを示し、理解と協力を求めた。出席者は97名。

自然発生的な救急患者の増加」と、悪意のあるマスギャザリング(テロのように日常診療では対応できない集団災害)の二つの側面のリスクを考えなければならぬ」と述べた。

箱崎幸也元気会横浜病院院長/元自衛隊中央病院第一内科部長は、「マスギャザリング(CBRNEテロを含む)災害の基礎知識」として、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて化学・生物・爆弾テロへの医療対応について講演。(1) 英国で起きたノビチョク(第4世代神経剤)を使用した元ロシアスパイ暗殺事件と化学剤推定補助ツールであるCHEMM-I S Tの仕組み、(2) 欧州での注射炭素の確定症例や天然痘感染者の症例等、(3) ポストマンラソンのターニケット止血の有用性—についてそれぞれ概説し、市

M Sを使用した一斉送信システムを紹介することにもその実演を行った他、山口日医救急災害医療対策委員会委員長からは、競技会場の救護所・医務室の出務者をサポートするワンストップ窓口を開設することについて報告した。

マスギャザリング災害への対策を進化させる

— 中川副会長

キーワード



マスギャザリングとは

一定期間に、限定された地域に、同じ目的で、集合した多数の集団のこと。単なる人の集まりはマスギャザリングとは呼ばず、共通の動因があることが要件である。

「1,000名以上」を基準とする定義が多いが、医療対応準備は「25,000名以上」の場合に必要となる(『大規模イベント 医療・救護ガイドブック』より)。

CBRNEとは

化学: Chemical、生物: Biological、放射性物質: Radiological、核: Nuclear、爆発物: Explosiveを指す。従来の“NBC災害”の核(N)から放射性物質(R)を分離させ、更に爆発物(E)を新たに加えたもの。

有床診療所委員会中間答申まとまる



会内の有床診療所委員会は、このほど、中間答申「令和2年度診療報酬改定・税制改正要望を中心として」を取りまとめ、7月18日に齋藤義郎委員長（徳島県医師会長）から横倉義武会長に提出した。

本委員会では、平成30年10月31日に開催された第1回委員会において、横倉会長より「中長期的に見た、地域における有床診療所のあり方について」との諮問を受け、これまで5回の委員会を開催し、議論を重ねているが、今回の中間答申は、次期診療報酬改定及び税制改正に向けた要望を取りまとめたものとなっている。

中間答申は、「1. はじめに」「2. 人材確保の観点を中心とした診療報酬改定要望」「3. その他の人材確保対策について」「4. 事業承継と税制要望」「5. おわりに」の5部構成。

「2. 人材確保の観点を中心とした診療報酬改定要望」では、前回の改定で「1. 有床診療所の「地域包括ケアモデル（医療・介護）」として、介護サービスを提供している入院基本料1〜3を算定できることとなり、介護連携加算も新設された。（2）有床診療所在宅復帰機能強化加算の要件が緩和されるとともに、点数が引き上げられた——ことに関して、期待されていないと指摘。

次回改定では看護職員・看護補助者の確保の観点から、「看護補助者加算の引き上げ」「介護福祉士等の処遇改善（介護職員の処遇改善の対象を医療機関で働く看護補助者にも広げる）」を、医師の勤務負担の軽減の観点から、「複数の医師で運営するに足る医師配置加算の引き上げ」「有床診療所でも届出を認められるようにすること」「地域医療介護総合確保基金等の活用」「市町村独自労働省の『医師、看護師等の宿日直許可基準』に関する通知の遵守とともに、労働基準監督署でも現状の解釈を十分踏まえ対応をすること」なども求めている。

更に、「4. 事業承継と税制要望」では、「個人版事業承継税制を活用して事業承継した場合でも、その効果を受継ぎたまま後継医師が医療法人成りの選択ができるよう制度が改正されること」に加えて、「持分の定めのある社団医療法人の出資評価の見直し」「認定医療法人制度の適用期限延長」などを要望している。

本委員会では引き続き、本答申の取りまとめに向けて検討を重ねていくことになっている。

日医 8月1日より 事務局組織の再編を決定

日医は、7月23日に開催された令和元年度第12回常任理事会において、事務局の再編を8月1日付で実施することを決定した。

具体的には、（1）会員情報システム課へ移管し、（2）員情報システムの再構築を図るため、会員情報システム課へ移管し、電子認証センターと一体的に運用する、（3）情報サービス課管下にあった医学図書館を生涯教育課へ移管する、（4）情報サービス課管下にあった女性医師支援センターを独立の部署とする、（5）総務課の業務多様化に伴い、人事課を再設置する——となっている。

教授の椅子

数カ月前、山崎豊子原作の「白い巨塔」が何度目のテレビドラマ化をされ、高視聴率を取ったという。

教授に就任した。私の親友である。研究熱心で、人当たりもよく、苦勞人で、部下にも慕われている。少し時間は掛かったが、晴れて教授となった。さぞ喜んでいと思う。早速連絡した。

私のお祝いの言葉に明るく答えてくれたものの、歯切れが悪い。さては、早くも問題が起きたかと心配していると、「教授になれたのはうれしい。しかし、就任後すぐに自分がこの職に向いていないと悟ってしまった。幸い、教室の人は豊富なので、出来るだけ早く辞めることに決めた」と壇を切ったように話した。こちらは言葉も出ない。

挙句に、「今後は、どうしても臨床の最前線に身を置きたいので、今、近隣の市民病院の部長職に就けないか画策中だ。



新臨床研修医制度導入後は、以前ほどではないにしても、研究者の誰もが教授の椅子に強い憧れを抱くことには変わりはないだろう。しかし、ここに例外がある。

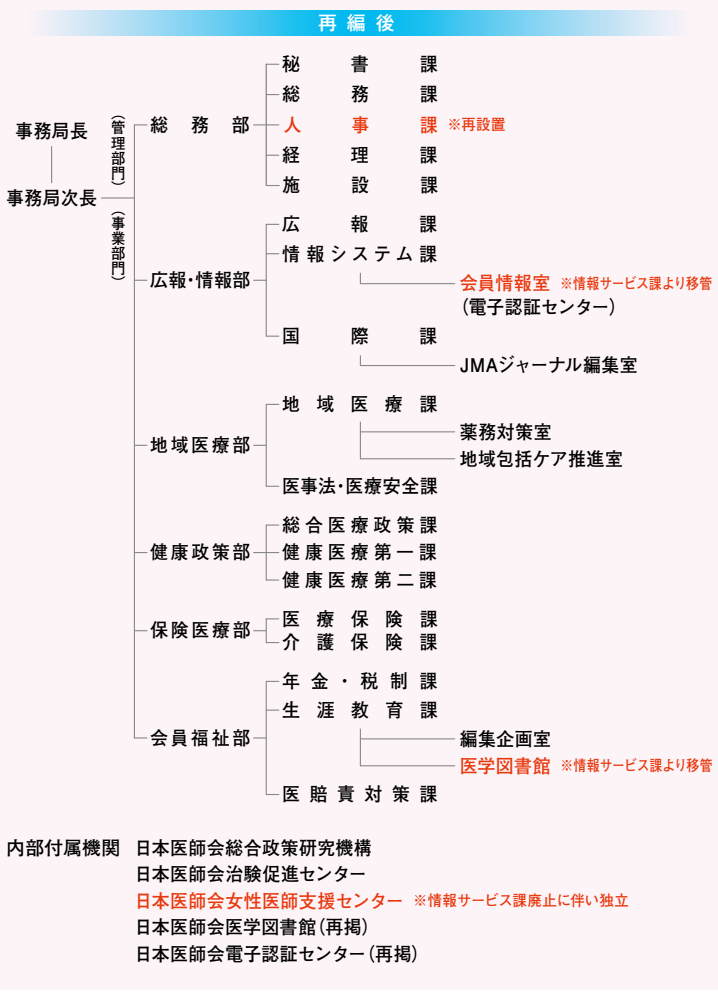
この人物は、今春、某大病院の臨床診療科の

ブズム

授になれたのはうれしい。しかし、就任後すぐに自分がこの職に向いていないと悟ってしまった。幸い、教室の人は豊富なので、出来るだけ早く辞めることに決めた」と壇を切ったように話した。こちらは言葉も出ない。

挙句に、「今後は、どうしても臨床の最前線に身を置きたいので、今、近隣の市民病院の部長職に就けないか画策中だ。

日本医師会事務局組織図



南から北から

滋賀県 滋賀県医師会報 第841号より
奇想天外
木津 明

「奇想天外」という名の植物(花)を育てて10年以上になります。まだ一度も花を咲かすことができていませんが、これについて、少し話してみたいと思います。

この植物を知ったのは数十年前のことになります。ある日、本棚にあった1冊の植物図鑑をめくっていた時、鉢を数段継ぎ足して作った背丈のある植木鉢から左右に長く垂れ下がる2枚の葉をつけた、奇妙な姿形の植物を見たのが最初でした。

その時多少の好奇心に駆られたのを覚えています。これがきっかけとなって栽培を始めることになった次第です。

書物によるとこの「奇想天外」はアフリカのナミビアのナミブ砂漠に自生している特異な植物で、この砂漠以外には世界のどこにも見られないと言われます。この種子は、発芽するとすぐに2枚の本葉を出しますが、これ以外の葉はつけません。そして、この2枚の葉が年に10センチメートルほど、終生にわたり伸

び続け、幅を広げながら成長し、ねじれたり、裂けたり、重なり合いながら周囲の砂漠に広がります。その姿は「昆布を無造作に積み重ねた」ような格好で、決して美しい容姿とは言えません。

根については、発芽とともに1本の根(主根)が出て、ほとんど枝分かれせず垂直に、地中深くに伸びる性質があります。成長した株では、その根の先端は地下10メートルほどに達するとも記されています。

寿命は、2000年以上の樹齢株が見られることから、相当に長く、また雌雄異株で、10年に1回程度開花します。雌花、雄花ともに松カサのような形を呈し、これがナミビアの切手の図柄にもなっています。

さて、「奇想天外」を自分の手で育て始めた時、国内では、無論、種子や苗木が手に入りません。また、ワシントン条約による絶滅危惧種に指定され国外から苗木の輸入が禁止されていますので、種子を南アフリカから購入し始めました。

最初のうちは、播種しても、発芽しなかったり、芽が出てもすぐに枯れるという失敗を繰り返して、一定の確率で発芽させるのに4~5年を費やしました。

次に、発芽させた苗木を育てるために、鉢に工夫が必要となりました。植木鉢の形状は、主根が非常にデリケートで、少しの損傷でも枯れるので、伸びているスペースがある鉢、すなわち、できるだけ深い鉢が適します。この条件に合うものとして、最終的に、土管とPVC管(塩ビ管、水道の配管に使われる素材)にたどりつきました。

直径が数センチメートルの太い土管を数本継ぎ足して、あるいは、PVC管を切断して、長さ1.5メートルほどの細長い筒を作り、これを植木鉢に使用しました。

水道の配管に使われる素材)にたどりつきました。直径が数センチメートルの太い土管を数本継ぎ足して、あるいは、PVC管を切断して、長さ1.5メートルほどの細長い筒を作り、これを植木鉢に使用しました。

次に、発芽させた苗木を育てるために、鉢に工夫が必要となりました。植木鉢の形状は、主根が非常にデリケートで、少しの損傷でも枯れるので、伸びているスペースがある鉢、すなわち、できるだけ深い鉢が適します。この条件に合うものとして、最終的に、土管とPVC管(塩ビ管、水道の配管に使われる素材)にたどりつきました。

次に、発芽させた苗木を育てるために、鉢に工夫が必要となりました。植木鉢の形状は、主根が非常にデリケートで、少しの損傷でも枯れるので、伸びているスペースがある鉢、すなわち、できるだけ深い鉢が適します。この条件に合うものとして、最終的に、土管とPVC管(塩ビ管、水道の配管に使われる素材)にたどりつきました。

次に、発芽させた苗木を育てるために、鉢に工夫が必要となりました。植木鉢の形状は、主根が非常にデリケートで、少しの損傷でも枯れるので、伸びているスペースがある鉢、すなわち、できるだけ深い鉢が適します。この条件に合うものとして、最終的に、土管とPVC管(塩ビ管、水道の配管に使われる素材)にたどりつきました。

次に、発芽させた苗木を育てるために、鉢に工夫が必要となりました。植木鉢の形状は、主根が非常にデリケートで、少しの損傷でも枯れるので、伸びているスペースがある鉢、すなわち、できるだけ深い鉢が適します。この条件に合うものとして、最終的に、土管とPVC管(塩ビ管、水道の配管に使われる素材)にたどりつきました。

次に、発芽させた苗木を育てるために、鉢に工夫が必要となりました。植木鉢の形状は、主根が非常にデリケートで、少しの損傷でも枯れるので、伸びているスペースがある鉢、すなわち、できるだけ深い鉢が適します。この条件に合うものとして、最終的に、土管とPVC管(塩ビ管、水道の配管に使われる素材)にたどりつきました。

次に、発芽させた苗木を育てるために、鉢に工夫が必要となりました。植木鉢の形状は、主根が非常にデリケートで、少しの損傷でも枯れるので、伸びているスペースがある鉢、すなわち、できるだけ深い鉢が適します。この条件に合うものとして、最終的に、土管とPVC管(塩ビ管、水道の配管に使われる素材)にたどりつきました。

福島県 福島市医師会報 第206号より
サプライズ
今泉 明

福島市でお世話になり、早くも15年が経過しました。これまでは東京や千葉の病院に勤務し、定年を迎えました。病院勤務時代は成人の外科や小児外科を専攻していました。

何十年前のある日のこと、救急車が午後2日の男児を搬送してきました。呼吸困難、チアノーゼが主訴でした。患児が乳児や新生児の場合、1枚のレントゲンフィルム

に「今、何歳になったの？」と尋ねると「39歳」という返事が聞こえました。私はそれを聞いてから40年前を振り返ってみました。

小児外科で扱う症例は、それいへルニアが圧倒的に多く、一つひとつの症例については全く記憶していません。今回のこのような症例では手術に至らず命を落とすことが多いためではないかと思いつつ、産科の先生の判断により、救急車で紹介頂いたことが救命し得た理由の一つと振り返っていました。

30代のことであった。友人の〇君の影響で海水魚飼育にハマった。暇があれば東京、神奈川のショップに出向いて、美しく、珍しい魚や珊瑚を求めていた。

その時も新たなショップを訪ねて、井の頭線の西永福駅に降り立った。改札口を出て、地図を見ながらショップの方向に歩いていった。そうすると、はるか向こうから恐ろしく顔の小さな、色白の可愛い女の子が歩いて来るではないか。まるでその小さい顔が周りの暗闇に浮かんで、顔だけが私に向かって一直線に近づいて来るごとくである。

術後40年が経過し、自分を担当した医師がどんな人間であったのか、本人から見れば大変興味のあるところだと思いつつ、私は1週間のほとんどを福島で過ごし、彼は東京で仕事をしていた。しかも出張が多いこのとで面会の時を合わせるのに苦労しました。私は私なりに彼がどんな40年を歩んできたか興味津々でした。

術後40年が経過し、自分を担当した医師がどんな人間であったのか、本人から見れば大変興味のあるところだと思いつつ、私は1週間のほとんどを福島で過ごし、彼は東京で仕事をしていた。しかも出張が多いこのとで面会の時を合わせるのに苦労しました。私は私なりに彼がどんな40年を歩んできたか興味津々でした。

術後40年が経過し、自分を担当した医師がどんな人間であったのか、本人から見れば大変興味のあるところだと思いつつ、私は1週間のほとんどを福島で過ごし、彼は東京で仕事をしていた。しかも出張が多いこのとで面会の時を合わせるのに苦労しました。私は私なりに彼がどんな40年を歩んできたか興味津々でした。

岩手県 盛岡市医師会報 No.657より
私とキョンキョン
久保田公宜

30代のことであった。友人の〇君の影響で海水魚飼育にハマった。暇があれば東京、神奈川のショップに出向いて、美しく、珍しい魚や珊瑚を求めていた。

その時も新たなショップを訪ねて、井の頭線の西永福駅に降り立った。改札口を出て、地図を見ながらショップの方向に歩いていった。そうすると、はるか向こうから恐ろしく顔の小さな、色白の可愛い女の子が歩いて来るではないか。まるでその小さい顔が周りの暗闇に浮かんで、顔だけが私に向かって一直線に近づいて来るごとくである。

術後40年が経過し、自分を担当した医師がどんな人間であったのか、本人から見れば大変興味のあるところだと思いつつ、私は1週間のほとんどを福島で過ごし、彼は東京で仕事をしていた。しかも出張が多いこのとで面会の時を合わせるのに苦労しました。私は私なりに彼がどんな40年を歩んできたか興味津々でした。

30歳まで大学に残り、工学博士号を取得したと、現在は自分の好きな分野で仕事をしていること等を語ってくれました。「これも命を救ってくれた先生のおかげです」と言い、何度も何度も頭を下げていました。

間もなく私の医師としての生活が終わろうとしています。反省すべき点多々あると思いますが、他の人に何らかの良い印象を残したことに對し「医師としてこれで良かったのか」と思っているところです。(一部省略)

て顔の正体が分かった。キョンキョン(小泉今日子)ではないか? どうしよう、近くにきたらあいさつした方が良さそうか。いや待て、相手は私のこと知らない。ならばそのまま無視して通り過ぎた方が良さそうか。や、サインくらいもらおうよ。等々考えているうちに何も声を掛けられず、すれ違って去ってしまっ瞬間であった。

「カット」と大きな声が背後からあった。振り向くと、カメラと方チンコがあった。どうやらテレビドラマの撮影だったようである。しかし考えてみるとおかしい。テレビドラマの口ケであればエキストラを使うはずで、素人の私が撮影の絵に入ってきたならばその時点で撮影中止である。それなのに彼女とすれ違うまで撮影は続けられた。

なせだ、という疑問に包まれながら私は歩いていった。そうだ、私の後ろ姿がカッコよく、このドラマの雰囲気マッチしていたのでそのまま撮影を続けたのではないか。そうに違いない。

その後、風の便りではそのクールの彼女の主演ドラマに私が映っていたそうである。それから私は芸能事務所からいつオファーが来ても良いように、医師を辞めてでも俳優になる覚悟をしている。

この話、信じるか信じないかはあなた次第です。

案内



子育て支援フォーラム in 千葉 「子育て支援とゼロ歳児からの 虐待防止を目指して」

◆主催(共催)：日医、公益財団法人SBI子ども希望財団、千葉県医師会
 ページ http://www.med.or.jp/people/info_event/seminar/005325.html

◆後援：厚生労働省他
 ◆日時：9月21日(土) 午後2時～5時
 ◆会場：ホテルポトブラザチバ(〒260-0002 千葉県千葉市中央区千葉港8-5)
 ◆参加費：無料
 ◆申込方法：日医ホームページ

◆主なプログラム：
 ①あいさつ 横倉義武会長、入江康文千葉県医師会長
 ②基調講演「子育て支援から子どもの行動異常を予防しよう」(横山浩之 福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター教授)
 ③シンポジウム

◆「今日の子ども家庭と新たな社会的養育の現状・課題」(加賀美尤祥 社会福祉法人山梨立正光生園理事長)
 ◆「虐待予防と愛着形成に向けた日本産婦人科医学会の取り組み」(相良洋子 日本産婦人科医学会常務

理事)
 ・「DVの親子関係への影響」(奥山真紀子 日本子ども虐待防止学会理事 長/小児精神科医)
 ④総合討論
 ◆問い合わせ・申し込み先：千葉県医師会(〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-1-1)

市中央区千葉港4-1-1
 ☎043-2442-4271、
 ☎043-2446-3142、
 ✉t.hoken@office-cma.or.jp
 ※当日は会場内に託児所を無料で設置する予定。利用希望者は申込書に記載したい。

令和元年度 第50回全国学校保健・学校医大会

◆メインテーマ：「多様な化する社会と子どもの成長」これからの学校医の役割」
 ◆主催：日医
 ◆担当：埼玉県医師会
 ◆日時：11月23日(土) 祝 午前10時～
 ◆会場：ソニックシティ/パレスホテル大宮(〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町1-7-5)

◆参加者：日医会員及び学校保健に関係のある専門職の者
 ◆参加費：20000円(昼食・懇親会費を含む)
 ◆申込方法：都道府県医師会を通じて行う。または、大会専用ホームページから申し込む。
 ◆主なプログラム：
 ・分科会
 ①からだ・こころ②耳鼻咽喉科③眼科
 ・開会式・表彰式
 ・基調講演「日本医師会学校医宣言について」(仮)(演者未定)
 ・シンポジウム「現代の子どもが抱える諸問題に

ご協力のお願い

【日本医師会】医療機関における キャッシュレス決済についてのアンケート

今般、日医ではキャッシュレス化のあり方を調査・分析するため、アンケートを実施することといたしました。何卒ご協力の程、お願いいたします。

分析結果は、日医で取りまとめ、(一社)キャッシュレス推進協議会の議論等、政策提言のためにのみ活用します。

また、データは統計的に処理し、個別の医療機関の情報が特定可能な形での公表はいたしません。

○実施期間：令和元年8月30日(金)まで

○対象：日医会員

○方法：下記のQRコード(スマートフォン、タブレット)、またはURL (<https://forms.gle/ActvTumb6VP9wEXr7>) よりアンケートページに移動の上、ご回答下さい。



お問い合わせ先

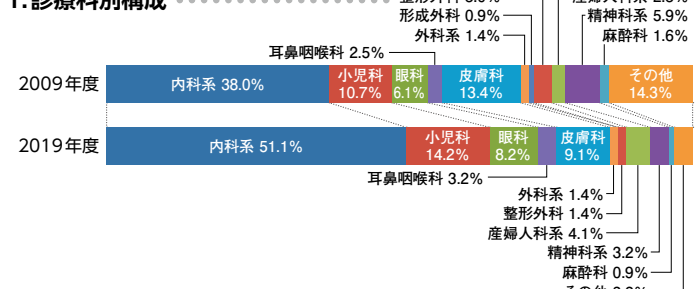
〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
 日医地域医療課(担当：木田、青木)
 TEL：03-3942-6137(直) FAX：03-3946-2140(直)

子どもが抱える諸問題について(仮)」
 ①「小児在宅ケアの未来に向けて(仮)」(松本吉郎 日医常任理事)②「子どもの頭痛について(仮)」(丸木雄一 埼玉県医師会常任理事)③「子どもの運動器症候群(ロコモ)と運動器検診の重要性(仮)」(柴田輝明 埼玉県医師会学校医会常任理事)④「発達障害の理解と対応(仮)」(平岩幹男 国立研究開発法人国立成育医療研究センター理事)
 ・特別講演「没沢栄一を育てた環境と時代」栄一が携わった社会福祉事業と人づくり(仮)(鹿島高光 郷土史愛好家)
 ◆問い合わせ先：埼玉県医師会(大会事務局)(☎048-824-2611(代))
 ※当日は、会場内に無料託児所を設置する予定。利用希望者は大会事務局に連絡頂くか、申込フォーム(備考欄)にその旨を記載願いたい。

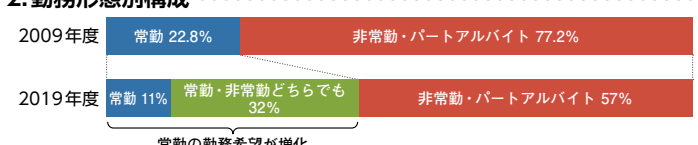
公益社団法人 日本医師会
女性医師支援センターから
女性医師バンク

女性医師バンクでは、定期的に求職登録者にアンケート調査を実施しています。今号では、2009年6月実施の調査結果と2019年6月実施の調査結果を比較し、最近の求職者の動向について報告します。

1. 診療科別構成



2. 勤務形態別構成



「診療科別構成」では、内科系の求職者の割合が約13%増加、また、小児科、産婦人科でも約3%増加しています。「勤務形態別構成」においては、常勤希望（「常勤・非常勤どちらも」を含む）の求職者が約20%増加しています。これは、女性医師バンクが開設から12年目を迎え、その間に、勤務環境の整備が進んだこと、また、過去に登録していた求職者においても育児が落ち着き、再度、常勤として勤務を希望するケースが増加しているのではないかと推測されます。女性医師バンクでは、今後も女性医師の多様な働き方を支援して参ります。

医師の求人・求職は

日本医師会女性医師バンク <https://www.jmawdbk.med.or.jp/>

登録件数

求職者数1,369人（累計）、求人施設数5,452施設（累計）、就業決定及び再研修紹介967件（累計）
（令和元年7月31日現在）

問い合わせ先

女性医師支援センター（女性医師バンク）
☎ 03-3942-6512 info-bank@jmawdbk.med.or.jp

書籍紹介



MSPAの理解と活用

船曳康子 著



性の個人差を視覚的に理解できるように工夫されているため、それを当事者やご家族、多職種にわたる支援者が共有することで、特性に対する共通理解を促し、現場での支援に生かすことも可能となる。

発達障害の要支援度評価尺度(MSPA)は、診断ではなく支援を目的として生活現場でのニーズを重視して開発された、日本生まれの新しい発達障害の評価尺度である。発達障害は個人によって特性が大きく異なるため、たとえ診断名が同じであったとしても、必要とする支援は一人ひとり異なるが、MSPAは特

本書の支援の輪が広がることを期待される。定価 1944円(税込) 発行 勁草書房

プライマリ・ケアの現場でもう困らない! 喘息・COPD・ACOの診かた 田中裕士 著



喘息とCOPD、その両者がオーバーラップしたACOは日常的に高頻度で遭遇する可能性のある疾患であり、その治療に当たっては、プライマリ・ケア医の役割が増している。そんな中で出版された

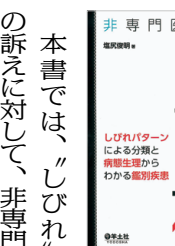
本書は、「喘息なのか、それともCOPDなのか」数多くある吸入薬・生物学的製剤のうち、どれをどのように使うべきなのか」といった実地医家の悩みに応えるべく、初期臨床医や専門外の医師にも理解しやすいように、診断の考え方、治療薬選択の具体的な方法が分かりやすく記載されている。

また、最近の治療法の目覚ましい進歩に伴って増えた吸入薬について、効果的な使い分けや減らし方ばかりでなく、治療を続けても止まらないせきへの対処方法についても、詳しく説明されている。

加えて、各項の冒頭には、多忙な医師にも要点がつかみやすいように、エッセンスやポイントが

まとめられており、診療に活用できる大変便利な一冊と言える。定価 3780円(税込) 発行 南江堂

非専門医が診るしびれ 塩尻俊明 著



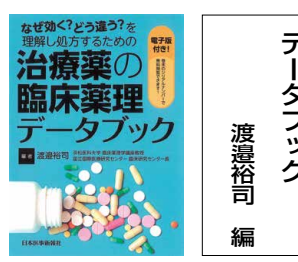
本書では、「しびれ」の訴えに対して、非専門医の立場で可能なアプローチ方法が豊富な図と共に解説されている。「しびれ」は日常診療でよく出会う訴えであるが、鑑別疾患が難しく、また病態生理の複雑さから、苦手意識をもつ医師も少なくない。

症状が典型例だけであれば、ある程度診断の目星はつくのかも知れない。しかし、現場では非典型例にも無視できない割合で遭遇することが多い。そこで必要になってくるのが、病態生理の理解である。

本書では疾患の典型例、非典型例、鑑別疾患を、病態生理から解説している他、鑑別疾患に関する他、「しびれ」のパターン(部位や経過など)ごとに疾患を分類し、それぞれの疾患の解説とリンクして示しているなど、系統立てて理解できる構成になっており、分かりやすく、「しびれ」診療の実践の一助としてお薦めの一冊と言える。定価 4860円(税込) 発行 羊土社

断がなされるようになるためには、臨床薬理学の

なぜ効く? どう使う? を理解し処方するための治療薬の臨床薬理データブック 渡邊裕司 編



薬物動態学、薬力学、薬理遺伝学的な情報に基づき、「必要とする人に、必要な薬を必要だけ」という薬物治療を実現することを目的とする臨床薬理学。そのゴールは、薬物治療を実践する臨床医にとってのゴールであり、医療現場でエビデンスに基づく迅速な処方判断がなされるようになるためには、臨床薬理学の

最新知見を臨床医が把握することが必須となる。本書は、わが国の臨床薬理学を牽引する編者の全面編集の下、臨床薬理学のエキスパートが、日常診療でよく使われる治療薬のエッセンスを、臨床医目線で分かりやすく、コンパクトにまとめた実用書である。全ての代表的薬剤に作用機序のイラストをつけるなどビジュアルを駆使した構成で、薬理作用、薬物動態、同種同効薬との違いがひと目で分かるよう工夫されている。副作用を回避しつつ、有効性を最大化する理想の薬物治療を追求する臨床医にとって、必携の一冊である。定価 4860円(税込) 発行 日本医事新報社

熱中症への
注意喚起に
ご協力を

日本各地で最高気温が35度以上となる酷暑が続いており、熱中症患者が増えることが心配されています。日医では熱中症に関するポスター「熱中症に気をつけましょう」を制作し、日医ホームページ (<http://dl.med.or.jp/dl-med/people/plaza/201808hsposter.pdf>) からダウンロードできるようにしていますので、待合室に掲示頂くなど、熱中症への注意喚起にご協力をお願いします。

日医広報課

勤務医のページ

大阪府医師会が進める勤務医部会活動

大阪医科大学循環器内科、大阪府医師会理事、日医勤務医委員会委員 星賀正明

バーである橋本先生に顧問として出席頂いている。昨年12月、同じく発症以来支えて頂いた阿部先生がご逝去(享年100歳)され、郡市区医師会・関西産研と合同で徳ぶ会を行った。

長年の叡智を結集して、時々の勤務医の課題をFace to faceで議論できる場をもつことを心から誇りに思い、歴代の大阪府医師会長を始め、関係各位に感謝申し上げます。

大阪府医師会勤務医部会は、昭和48年7月に山梨に次いで全国で2番目に発足し、46年の歴史をもつ。発足時のメンバーは、勤務医部長が橋本博先生(大阪市立住吉市民病院)、副部長が阿部源三郎先生(伊藤萬診療所)、関一郎先生(大阪医科大学)、藤田栄隆先生(大阪赤十字病院)であった。

現在も、月に2回同部会常任委員会を開催しているが、発足からのメン



ブロック合同懇談会「いろいろな視点から見た医師の働き方改革」

情報交換を行うとともに、研修医が地域医療、医療連携を理解し、今後の医師生活の中で、医師会を身近な存在として関心をもち、もっていただくことを目的とした。

更に、本年2月に新しく「ウェルカムパートナーシップ」(研修修了)を開催した。テーマは、「国民の医療を守る、新たな一歩へ!」。

本パーティーは、本会の会員区分がC会員からB会員に変わる臨床研修を修了予定の研修2年目医師を対象に、医師会入会の必要性を改めて周知することを目的とした。

この時期になると、若手医師にとってキャリアプランがより具体的になり、会場のあちこちで初対面の指導医と話し込む姿が見られた。

また、勤務医部会では、在阪5大学医学部対象合同企画「医学生と語る会」(通算11回目)を開催している。

5大学から2~5回生が参加し、将来のことが、医師会の正体、地域医療の重要性、働き方改革などを語り合った。

若手への取り組み

7年前から、新研修医ウェルカムパーティーを開催している。今年も、府内の新研修医325名を含む総勢473名が参加し、盛況であった。

大阪府内の研修医が一堂に会して親睦を深め、

勤務医のひろば

医師の働き方改革と診療に従事する大学教員

全国国公立大学医師会連絡協議会会員 筑波大学附属病院医師 川上 康



大病院の教員は、基幹である診療業務の他に、研究と教育が重要な業務である。

近年、患者さんへの説明や、初期研修医の診療行為の承認等に割く時間が増加し、研究に割く時間を確保することが以前と比較して困難になっている。

診療・教育・研究に要した勤務時間を合計して超過しないように管理されることから、一昔前のように休日や深夜に研究や論文執筆を行うことは

できない。

教員に限らず、大病院に勤務する中堅医師は同じような状況にあり、勤務しながら博士論文を作成するためには、時間を極めて効率的に各業務に配分する必要がある、疲弊している。

基礎医学者においても、研究を加速的に推進することが必要な時期が必ずあり、月間の勤務制限は悩みの種と聞いている。

働き方改革は、過重な勤務から医師を守るため

に必須なものであるが、医学研究の衰退を招かないためには、今までの診療体制を変える必要性を感じている。

担当医の時間交代制、緊急性がない病状説明、検査説明は通常勤務帯に実施する等は、患者さんの理解も必要なため、病院として地域に説明を行っている。

こうした大病院の診療体制に関する説明に、医師会としてご理解、ご支援をお願いできればと考えている。

最後はやはり「働き方改革」

継続性をもった将来の担い手としてのみならず、「新専門医制度」「働き方改革」は、若手医師が当事者である。私は学部学生や研修医と長年関わってきた、価値観の多様化を実感している。

昨年度から、近畿医師会連合からの推薦を受け、日医勤務医委員会委員として参加させて頂き、多くのことを学んでいる。中でも若手医師に

対しては、京都府医師会や北海道医師会の先進的な取り組みや日医ジュニアドクターズネットワーク(JMAJDN)に感銘を受け、勤務医部会

にも帰った。

JMAJDNから紹介頂き7月9日、大阪府医師会館に淀川キリスト教病院産婦人科の柴田綾子先生(JMAJDN役員)を迎え、特別講演会を開催した(写真左下)。

若手医師が考える現場からの働き方改革を、「あなた

の職場の残業を減らす10の方法」と題して講演頂いた。

「明日からできる取り組み」として、(1)病状説明の時間内施行の掲示、(2)時間外に主治医を呼び出さない、(3)情報共有ツールの導入、「効果の高い取り組み」として、(1)



特別講演「若手医師が考える現場からの働き方改革」

カンファレンスを時間内に、(2)主治医制の撤廃、(3)当直明けの半休、「働きやすくなる取り組み」として、(1)当直帯の申し送り、(2)医療事務・アシスタントの導入、(3)平日の有休導入が挙げられた。

最後に、最も重要な点として、間違った思い込み(残業は必要悪、全員が同じように働くべき)を捨てることを提言された。出席者からは賞賛の声とともに、是非、自分の職場でも改革していきたいとの声が多く挙がった。

平成元年の政府白書で、日本人の勤務時間が長すぎることは既に指摘されていた。「働き方改革」は、2009年、駒崎弘樹NPO法人フーレンス代表理事(当時29歳)著の『働き方革命』によってムーブメントが起きたと回想する。要は、若手抜きにはこの改革は成功しないのではないかと考える。

世代を超えて、医師が健康で誇りをもって、国民のために働ける社会にすることが、勤務医部会の願いである。